前半（８月から９月）のアンケート結果

グラフィカル ユーザー インターフェイス

低い精度で自動的に生成された説明アンケートに出した画像

テキスト

自動的に生成された説明テキスト, 手紙

自動的に生成された説明

新聞のスクリーンショット

自動的に生成された説明タイムライン

自動的に生成された説明

回答数：１３回答

年代別

２０代：１０人（76.9%）

４０代：２人　（15.4%）

５０代：１人　（7.7%）

性別

男性：８人（61.5%）

女性：５人（38.5%）

(1)どの画像が見やすかったか（複数選択可）

画像１：３（23.1%）

画像２：７（53.8%）

画像３：１（7.7%）

画像４：４（30.8%）

画像５：５（38.5%）

画面背景の色彩効果に関する研究という論文では、作業者が無意識にとらえている背景色が作業に与える影響について、心理的イメージ及び作業パフォーマンスの観点から検討している論文である。

テーブル

自動的に生成された説明

グラフ

自動的に生成された説明　　　　　　　　　　　　　　　　←表１

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　図１→

この論文では上記の表１の背景色を用いて調査した。その結果、９６や１９２では時間がかからなかったものや、０や２５５のような背景と文字のコントラストが強く文字が見やすいと考えられていたものはパフォーマンスが上がらなかった。（図１）

心理的な観点からみると、コントラストが強いと「見やすい」「澄んだ」などの心的快適を示したが輝度（光源の明るさを示す）の高さから「まぶしい」「目が疲れる」などの心的不快を示した。

この結果から背景と文字のコントラストが強いもの（０や２５５）では「文字の見やすさ」の効果は高いが、「心的部分」で不快感が起きその結果パフォーマンスが上がらなかったと考えられる。

背景と文字のコントラストが弱いもの（９６）では「文字の見やすさ」の効果は少なかったが、背景色自体の色の強さが弱いことから全体より高いパフォーマンスを発揮したと考えられる。中間のもの（１２８）はコントラストが一番弱いことから最も時間がかかったと考えられる。

論文と合わせて

論文では背景と文字のコントラストが強いと見やすいなどの心的快適を示し、コントラストが強く輝度が高くなるとまぶしいや目が疲れるといった不快感が起きるとなっていたが

私たちのアンケートでも似たような結果が出ており、背景を白、文字を黒にしていた画像２や画像５が見やすいという結果になった。

その次に背景を水色にした画像４が見やすいという結果になっており、見やすさという点では画像２や５のような高い評価ではなかったが、コントラストの弱さなどから不快感の少なさによりランクインしたと考えられる。

逆に、コントラストの強い画像３などは論文のように心的不快からか、評価は得られなかった。

TOP画面は他のサイトと比べると画像（ポスター）と文字が全体的に小さかった。

そのため文字と画像を全体的に大きくした。

既存のサイトではTOP画面から公開スケジュールに進み、月ごとの映画の情報へ飛びそこで個々の映画の情報を得る方式が多い印象を受けた。しかし論文によると、階層構造が深いサイトだとクリック数を少なくする必要があるという結果がでていた。そのため私たちのサイトではTOP画面からすでに月ごとの映画情報を見ることができ、そこからすぐに個々の映画の情報を得る方式にしてクリック数を少なくした。

上記の方法を取ったことでTOＰ画面は画像（ポスター）の多い画面になった。TOP画面では文字というよりは画像（ポスター）を見て判断することが多くなると考え背景を水色などの文字とのコントラストを弱くする方式をとる。そうすると論文の結果からだと文字の可読性が低くなるが、画像がメインとなる画面になるので問題ないと考える。

文字の多くなる映画紹介画面やレビュー画面では可読性を高めるために限りなく白に近い背景色を利用しようと考えている。

既存サイトでは文字のフォントは全体的にゴシック体を多く利用しているサイトが多くあった印象だった。論文を調べたところゴシック体は男性的で力強いや、角ばった、硬いという印象があり目につきやすくなり、明朝体には女性的で丸みがあり、柔らかいという印象で柔和性（おとなしい、落ち着いていること）があり読みやすいという結果が出ていた。

そこで私たちの作るサイトは映画の題名やタブなどをゴシック体にして利用者の目に留まりやすくし、映画紹介欄のあらすじなど文章を読むことが必要なものに関しては明朝体を利用して、文字を柔らかくすることで読みやすさを向上させる